

川崎市委託事業報告

川崎市の地名に関する調査研究及び普及啓発業務委託

「川崎市 中原区・高津区・宮前区 の町名の移り変わり」



武蔵小杉駅付近の風景



溝口駅前キラリデッキ



旧大山街道と国道 246 号線(梶ヶ谷交差点)

2019 年 3 月

報告 日本地名研究所

主催 川崎市

●本事業の趣旨・目的

川崎市の文化は、多様な地形や歴史を背景に育まれており、川崎市文化芸術振興計画では、「地域資源を活用した特色ある文化芸術活動の推進」を施策の一つに掲げている。

地名は土地を識別するだけでなく、土地の由来やその地域に住んでいる人たちの関係や歴史を物語るものであり、生活や文化などについて伝えることができる貴重な文化財の一つと言える。

本事業は、市内の地名の由来を調査研究し後世に残していくとともに、研究成果を講座等の形で市民に還元することで、市民が地域への愛着と誇りを一層深めることを目的として実施するものである。

平成 30 年度は、中原区・高津区・宮前区の駅周辺の再開発や住居表示による町名と町の変化について調査研究を行うとともに、研究成果として講座及びまち歩きを開催した。

○調査研究内容

川崎市中部、特に高津区・宮前区においては、東急田園都市線に沿って町が大きく変化してきた。昭和 41 年（1966）年に東急田園都市線が長津田駅まで延長したことによる、沿線の各駅周辺が大きく様変わりしてきた。その後の溝の口駅周辺の再開発により、関連する周辺地域を中心に新しい町が再編成されようとしている。

中原区の小杉駅周辺も東急東横線と目黒線が複々線化して、輸送量のアップを図った。また、念願の横須賀線の武蔵小杉駅新設により、小杉駅周辺の再開発に拍車がかかった。いくつものブロックに分けて工事が実施され、高層ビル化と公共施設の合築は最も特徴とする。

こうした動向を踏まえ本事業では、東急田園都市線・東急東横線・横須賀線の周辺の中原区・高津区・宮前区の町名・町の変化について調査研究を行った。

○講演会

調査研究成果に関する講座を以下のとおり開催した。

【第 1 回】

日 時：平成 31 年 2 月 16 日（土） 13 時半～16 時

参加人数：52 人

会 場：川崎市中原図書館多目的室

【第 2 回】

日 時：平成 31 年 2 月 17 日（日） 13 時半～16 時

参加人数：36 人

会 場：大山街道ふるさと館 イベントホール

講 師：日本地名研究所 菊地恒雄

○まち歩き

調査研究成果に関するまち歩きを以下のとおり開催した。

【第 1 回】

日 時：平成 31 年 2 月 24 日（日） 13 時半～15 時半

参加人数：28 人

場 所：新丸子駅集合 上丸子・小杉地区を歩く

【第2回】

日 時：平成31年3月3日（日）13時半～16時

参加人数：24人

場 所：梶ヶ谷駅集合 宮崎・向ヶ丘地区を歩く

講 師：日本地名研究所 菊地恒雄

目次

本事業の趣旨・目的
調査研究内容

【中原区】

小杉地区	・・・・・・・・	1
等々力地区	・・・・・・・・	1
上丸子地区	・・・・・・・・	2
下沼部地区	・・・・・・・・	3
中丸子地区	・・・・・・・・	3
今井地区	・・・・・・・・	3
宮内地区	・・・・・・・・	4
上小田中地区	・・・・・・・・	5
下小田中地区	・・・・・・・・	5
木月地区	・・・・・・・・	6
井田地区	・・・・・・・・	7
新城地区	・・・・・・・・	8
市ノ坪地区	・・・・・・・・	9
荻宿地区	・・・・・・・・	9
上平間地区	・・・・・・・・	10
加瀬地区	・・・・・・・・	11

【高津区】

溝の口地区	・・・・・・・・	11
上作延地区	・・・・・・・・	12
下作延地区	・・・・・・・・	13
久本地区	・・・・・・・・	13
坂戸地区	・・・・・・・・	14
未長地区	・・・・・・・・	15
梶ヶ谷地区	・・・・・・・・	15
新作地区	・・・・・・・・	16
千年地区	・・・・・・・・	17
子母口地区	・・・・・・・・	17
久未地区	・・・・・・・・	18
明津地区	・・・・・・・・	18
蟹ヶ谷地区	・・・・・・・・	19

下野毛地区	・ ・ ・ ・ ・	19
北見方地区	・ ・ ・ ・ ・	20
諏訪地区	・ ・ ・ ・ ・	20
瀬田地区	・ ・ ・ ・ ・	21
二子地区	・ ・ ・ ・ ・	21
久地地区	・ ・ ・ ・ ・	22
宇奈根地区	・ ・ ・ ・ ・	23

【宮前区】

野川地区	・ ・ ・ ・ ・	23
有馬地区	・ ・ ・ ・ ・	24
馬絹地区	・ ・ ・ ・ ・	25
土橋地区	・ ・ ・ ・ ・	26
菅生地区	・ ・ ・ ・ ・	27
平地区	・ ・ ・ ・ ・	28
長尾地区	・ ・ ・ ・ ・	29

【報告会論旨】

・ ・ ・ ・ ・	31
-----------	----

【付録】

講座資料 パワーポイント

小杉(こすぎ)地区

小杉は昭和18年4月に小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目を起立した。歴史ある地名を残す町と鉄道や幹線道路を活かした町を考えての町づくりであった。

小杉陣屋町は旧堤防内の小杉を編入して、平成3年9月30日に住居表示が実施され、小杉陣屋町1・2丁目となった。

昭和34年の武蔵小杉駅前北口バスターミナルと南武線沿線道路の整備、タワープレイスビル、東口の再開発、公共施設の建て替えによる再開発など、上丸子地区と一体の町づくりが進められてきた。

現在の小杉地区の面積は、小杉町1～3丁目42ha、小杉陣屋町1・2丁目28ha、
小杉御殿町1・2丁目29ha

小杉の小名 総山耕地、中町耕地、反町耕地、東町耕地、新田、御殿跡、山谷、宿、片町、榎戸

小杉の字 上耕地、中耕地、下耕地、惣山、陣屋、御殿、堤外

通称地名 上宿、下宿、東区、西区、山王下、八反田、中町、東町、六十間町、あら田、台ノ根、芝原、妙泉寺屋敷、関所、島、杉山下、堂下、成就下、馬鹿淵、三右衛門河岸、天神下、土手根河岸、向河原、破竹藪、本村、横道、下道、桜道、新開地、小杉十字路、大下

小杉町1丁目 字下耕地

小杉町2丁目 字中耕地

小杉町3丁目 字上耕地、中耕地、下耕地

小杉陣屋町1丁目 字陣屋、下耕地、惣山、堤外

小杉陣屋町2丁目 字陣屋、中耕地、堤外

小杉御殿町1丁目 字御殿、陣屋

小杉御殿町2丁目 字上耕地

等々力(とどろき)地区

世田谷に等々力がある。多摩川の蛇行により村が分断され、川崎側に飛地ができた。明治45年に東京府と神奈川県の間を多摩川として決着したので、川崎側の等々力となった。しばしば江戸時代には小杉村と境界争いをしている。

旧堤防で小杉や宮内との境とするが、等々力は平成6年10月17日に住居表示が実施され、宮内や小杉の一部を編入して現在の地域となる。

現在の等々力地区の面積は、等々力76ha

等々力の小名 ー

等々力の字 立返、向河原

通称地名 等々力河原、七つが池

等々力 等々力字向河原、立返、小杉字堤外、宮内字下河原耕地、中河原耕地

上丸子(かみまるこ)地区

丸子村が**上丸子・中丸子・下丸子**に分割され、川崎側に上丸子・中丸子があり、大田区側に下丸子がある。**丸子(マリコ)**は朝廷に仕える部民の**丸子部(マリコベ)**からの地名と考える。その仕事の一つが渡し守であったところから、地名として付けられたと思われる。

昭和7年に多摩川に新堤防を築くことになり、上丸子村字青木根耕地が河川敷内となるため、立ち退きとなり、上丸子の地内に移った者もいたが、村外へ移る者もでた。その青木根の天神を祀ったところから、**上丸子天神町**とした。

昭和18年4月に町を分割して、**上丸子天神町、上丸子八幡町、新丸子町、新丸子東1～3丁目、丸子通1・2丁目**が起立した。昭和32年4月に**上丸子山王町1・2丁目**が起立する。

現在の横須賀線武蔵小杉駅は新丸子東にあり、武蔵小杉駅東口バスターミナルと高層ビルのは大半はこのエリアに位置する。

現在の**上丸子地区**の面積は、上丸子 5ha、上丸子山王町1・2丁目 27ha
上丸子天神町 32ha、上丸子八幡町 30ha、
新丸子町 10ha、新丸子東1～3丁目 27ha、
丸子通1・2丁目 16ha

上丸子の小名 青木根耕地、二本松、石井田耕地、芝耕地、古川耕地、五町免耕地、五段田耕地

上丸子の字 菅原前、上耕地、松原通、中耕地、下耕地、古川通、山王前
通称地名 青木根、松原、山谷、上、下、神主の山、後耕地、上大明神、下大明神、平田、かぎ田、六反町、新田、やくろ田、三反げ、松本、大道ばた、ほっこし、かわす、石田、池田、池の島、二斗免、ながれ、五合耕地、前田、しよっから、はんでん島、で一ぼ一、茶畑、はんのき山、竹山、三業地、角の山、上の道、三本橋、しあん橋

上丸子 字古川通

上丸子山王町1丁目 字山王前、下耕地、古川通

上丸子山王町2丁目 字古川通

上丸子天神町 字菅原前、上耕地

上丸子八幡町 字松原通、山王前

新丸子町 字中耕地

新丸子東1丁目 字中耕地

新丸子東2丁目 字中耕地、下耕地

新丸子東3丁目 字下耕地、古川通、小杉字下耕地

丸子通1丁目 字上耕地、中耕地

丸子通2丁目 字中耕地

下沼部(しもぬまべ)地区

下沼部村の本村は大田区側にある。明治 45 年に東京府と神奈川県の間を多摩川とすることで決着し、飛地が下沼部として存続した。多摩川により分断された町であるように、**沼部**は河川敷の湿地を意味する地名である。

字**玉川向**には日本電気(NEC)が操業し、周辺にも工場群が多く立地していた。現在は廃線になったが、南武線から新鶴見操車場への引込線があって貨物輸送の一翼を担っていた。現在は新社屋ができ、武蔵小杉駅と一体となった町づくりを目指している。

現在の下沼部地区の面積は、下沼部 51ha

下沼部の小名 向河原 (東京側は除く)

下沼部の字 玉川向、洲畑

通称地名 北、南、西河原、西村、通り、上の耕地、タジワラ、大松の下、下口、川田、池の端、法蔵さん、下の道、桜道、ガンゼキ、新開地

中丸子(なかまるこ)地区

中丸子は**丸子村**が**上丸子・中丸子・下丸子**の3つに分けられ、多摩川右岸に位置する。村内に神明神社がある。元は羽黒社といい、明治 34 年に周辺の神社を合祀して神明大神と称した。「おびしゃ祭」や「おしゃもじさま」として親しみのある神社である。

村の北側を二ヶ領用水の余剰水(悪水)が多摩川に流され、**洗川**といった。また、府中街道に沿って中丸子用水が村内に流れていた。

現在の中丸子地区の面積は、中丸子 74ha

中丸子の小名 前田通り、塚田、長島耕地、たで原

中丸子の字 新宿耕地、中町、塚田、長島、西村、中村、南田、上河原、下夕河原、平間下、下河原

通称地名 春田、上川田、出口、長田、向田、沼、下タノ川田、ハズレ、川欠割、林山、宮前、オニゲ、宮正道、大南下、水車下、大門下、中村下、タジワラ、コゲバタケ、ドンブリ

今井(いまい)地区

今井は 1559 年(永禄 2 年)の『小田原衆所領役帳』に「稲毛庄木月郷今井やけへ方」とある。

新しく引いた**井(イ)**で水路のこと。中世にはこの付近が新しく開墾されたと思われる。

二ヶ領用水が完成し、泉沢寺裏に今井堰(新田堀)ができ村内を流れた。後に神地橋の下に今井堰が移動する。また、木月堀や根方堀(四ヶ村堀)の水も利用していた。

今井は昭和 15 年 8 月に**今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町**となる。

平成 27 年 9 月 7 日に今井全域に住居表示が行われ、今井南町の東急東横線より南の地域が**木月住吉町**に編入された。

現在の今井地区の面積は、今井上町 15ha、今井西町 14ha、
今井仲町 14ha、今井南町 24ha

今井の小名 中通り、下田通り、上田通り、田向

今井の字 北耕地、中央耕地、西耕地、南耕地、巽耕地

通称地名 上、中、下、芝原、柳町、宮田、大下、九段畑、番屋ノ前、狐藪、洗場、
入の戸、御鷹野橋、橘樹郡道、水道道路、中央通り、法政通り、小塚

今井上町 字北耕地、上小田中字道下耕地の一部

今井西町 字西耕地、北耕地

今井仲町 字中央耕地、南耕地

今井南町 字中央耕地、南耕地、巽耕地

宮内(みやうち)地区

稲毛本郷の地と考えられている。宮は春日神社で村の中心にあり、多摩川が蛇行する中で、この場所が一段高い位置にあったと考えられている。春日神社境内には遺跡が出土し、古くから人々が住み付いていたと思われる。

旧堤防が村内に通り、多摩川の勢いを制御する**杵鼻**や**大土手**の地名がある。また、水運を連想させる**蔵前**もあり、多摩川に接する村の姿が想像できる。

宮内は平成 5 年 2 月 22 日に住居表示が実施され、宮内 1~4 丁目となった。

現在の宮内地区の面積は、宮内 1~4 丁目 100ha

宮内の小名 さんさい耕地、古川耕地、川田耕地、前耕地、堤外耕地、御蔵前、高瀬

宮内の字 西耕地、西下耕地、上蔵前耕地、南耕地、下蔵前耕地、下耕地、白田耕地、
下川原耕地、中川原耕地、上川原耕地、下杵鼻耕地、上杵鼻耕地

通称地名 大土手、新川、山谷、上の池、下の池、淵の上、大丸、堀の内、高ロクデ、
下ロクデ、下の河原、隠居の田、塚の下、天神山、きつね山、松山、馬捨場

宮内 1 丁目 字下蔵前耕地、上河原耕地、上蔵前耕地、西下耕地、下杵鼻耕地、

宮内 2 丁目 字南耕地、西下耕地、西耕地、上杵鼻耕地、上小田中字上耕地、新田耕地

宮内 3 丁目 字下河原耕地、南耕地、下耕地、下蔵前耕地、上蔵前耕地、中河原耕地

宮内 4 丁目 字白田耕地、下耕地、南耕地、上小田中字中耕地、家附耕地、小杉字御殿

上小田中(かみこだなか)地区

1164年(長寛2年)の文書に**小田中**の名が載る。1171年(承安元年)の『稲毛本荘検注目録』に「**小田中郷**」という荘園内村郷の存在が明らかになった。**コダナカ**と言うが、本来は**オダナカ**であろう。オダ・ナカかコ・タナカで、コタ・ナカとは言わない。オダは湿田のことで、その中央に位置していたことか。

上・下に分かれるのは戦国末期で、1549年(天文18年)の吉良頼康文書に「上小田中宝地」と載るのが最初である。

上小田中は大村であったことから、**神地**と**大ヶ谷戸**に分けて支配した。現在でも複数ある町会名に神地と大ヶ谷戸を冠するものが多い。

武蔵中原駅前に富士通の工場があり、武蔵新城駅近くには社宅が多く建てられたが、その後建て替えられマンションなどが多く建設された。

上小田中は平成8年2月13日に住居表示が実施され、上小田中1～7丁目となった。

現在の**上小田中**地区の面積は、**上小田中1～7丁目 144ha**

上小田中の小名 神地、大ヶ谷

上小田中の字 上耕地、稲倉戸耕地、新田耕地、中耕地、七揚耕地、家附耕地、道下耕地

通称地名 上、常陸分、向、東、小田中、橋場、南、本村、山谷、暗闇、光円寺前、観音前

上小田中1丁目 字上耕地、宮内字西耕地の一部、北見方字下倉耕地の一部

上小田中2丁目 字新田耕地、上耕地、稲倉戸耕地、中耕地、宮内字西下耕地、西耕地、南耕地の一部

上小田中3丁目 字七揚耕地、稲倉戸耕地、上耕地、

上小田中4丁目 字中耕地、七揚耕地

上小田中5丁目 字七揚耕地、中耕地、下小田中字上耕地一部

上小田中6丁目 字道下耕地、七揚耕地、家附耕地、中耕地、新田耕地、宮内字白田耕地、下小田中字北島耕地、上東、今井上町、今井西町の一部

上小田中7丁目 字家附耕地、道下耕地、宮内字白田耕地、小杉御殿町1丁目・2丁目の一部

下小田中(しもこだなか)地区

読み方は上小田中の項に同じ。

純農村地帯であったが、昭和28年ころから住宅地として転用が始まり、昭和40年代に入ると社宅などの中層マンションが多く建設された。それでも、稲作から花卉栽培へと転換してパンジーの一大産地を形成した時期もあった。

下小田中は平成2年11月23日に、住居表示が実施され、下小田中1～6丁目となった。

現在の下小田中地区の面積は、下小田中 1～6 丁目 125ha

下小田中の小名 殿屋敷、池田、中村、小関、北島、東村、カサ村

下小田中の字 上耕地、北島、中村、西ノ辺、小関、西村、上東、下東

通称地名 広町、中野、神地前、第六天前、宮本、東四ツ又、鎌倉道、新道、中道、根どうり、大山道、井田道、天神森の畑、古屋敷の田、かながわまちの田、供養塚の畑、シンチ、馬捨場

下小田中 1 丁目 字上耕地

下小田中 2 丁目 字北島、上東、上小田中字道下耕地の一部

下小田中 3 丁目 字西村、下東

下小田中 4 丁目 字中村

下小田中 5 丁目 字西ノ辺

下小田中 6 丁目 字小関

木月(きづき)地区

キツキの地名の由来は分からないが、「**築く**」から来たと考えたい。木月の南側を矢上川が流れ、洪水のたびに、地形が変化し、新たな土地を整備しなければならなかった。そのようなことから、少しでも洪水から田畑や家屋を守るために、土盛りして水害から身を守ったところからの地名ではないか。

矢上川よりの地域を**佐原場（サラバ）**といい更地（サラチ）のようなところ、**根搦（ネグルミ）**は根ガラミで山裾の根をからむように矢上川が曲流していた。木月と南加瀬の境に川がくの字となっており、鶴見川の流れが逆流する場所にあったことによる。

昭和 15 年 8 月、元住吉駅周辺の地域が**木月伊勢町、木月大町、木月祇園町**として起立する。さらに昭和 17 年 10 月に**木月住吉町**が起立する。

木月は平成 15 年 10 月 14 日に住居表示が実施され、木月伊勢町が、平成 16 年 10 月 12 日に木月 1 丁目、木月大町、木月祇園町、木月住吉町となる。更に平成 18 年 2 月 12 日に木月 2・3 丁目、平成 18 年 11 月 4 日に木月 4 丁目となる。また、平成 21 年 11 月 2 日および平成 27 年 9 月 7 日に境界変更に伴う住居表示が木月住吉町で実施された。

現在の木月地区の面積は、木月 1～4 丁目 93ha、木月住吉町**ha、
木月伊勢町 6ha、木月祇園町 12ha、
木月大町 20ha

木月の小名 佐原場、中村、矢倉、渋川、上橋戸、石塚、二子塚、大沼、天王塚、小沼、伊勢面、膳棚、深町、清水町、大川町、北見町、矢際

木月の字 大耕地、深耕地、祇園橋、矢倉、二ツ塚、小沼、稲荷町、中ノ町、上ノ町、天王森、中山通、諏訪町、下ノ町、八幡町、子ノ神町、田中、春日町、中島、田中耕地、伊勢町

通称地名	村役場、しばら、北国、こちだ、竹の下橋戸、しまね、高畑、天王森、源内前、おゝさらば、根搦、四反田、寺の前、組屋敷、右衛門屋敷、御堂の下、与平山、子ノ神、まる山、とうかん森、梨の木、代官屋敷、牢屋敷、そり田、原屋敷、沖田、向新田、石神前、田中の水車、耕地の水車、木月堀、田中堀、諏訪堰、矢上堰、水道道路、記念道路
木月 1 丁目	字矢倉、稲荷町、二ツ塚
木月 2 丁目	字矢倉、稲荷町、中ノ町、八幡町
木月 3 丁目	字小沼、二ツ塚、稲荷町、中ノ町、天王森、上ノ町、中山通
木月 4 丁目	字稲荷町、中ノ町、八幡町、中山通、諏訪町
木月住吉町	木月住吉町、今井字巽耕地、苜宿字西畑、東畑、市ノ坪字中村通、道之内一部
木月伊勢町	字伊勢町、大耕地、今井字巽耕地
木月祇園町	字祇園橋、大耕地、井田字東町の一部
木月大町	字大耕地、今井西町、今井南町の一部

井田(いだ)地区

1171 年（承安元年）の『小田原衆所領役帳』に「**井田郷**」の名が載る。イ・ダの**イ**は水の流れを意味し、**ダ**は処を表わす語。井田には幾筋もの流れがあり、条里制区画ができていたと考える。二ヶ領用水ができる前から比較的灌漑用の水が確保できており、二ヶ領用水完成後も、上小田中・下小田中と一緒に、溝の口付近から取水した四ヶ村用水を使用していた。ところが、その後十分に用水が確保できなくなり、1682 年（天和 2 年）に新規に井田堰を上小田中と宮内境から取水することになった。井田堀は二ヶ領用水ができてから 71 年後にできたことになる。

昭和 15 年 8 月、井田の平地部分が分割されて、**井田三舞町**、**井田杉山町**、**井田中ノ町**が起立する。

井田は平成 8 年 11 月 18 日に住居表示が実施され、井田 1～3 丁目、井田三舞町、井田杉山町、井田中ノ町となる。

現在の井田地区の面積は、井田 1～3 丁目 67ha、井田中ノ町 29ha、
井田三舞町 13ha、井田杉山町 19ha、

井田の小名 六百谷、和田、観音町、中ノ町、川井町、東町、杉山、三枚、砂子、辻下、中原、丸山、御伊勢山、

井田の字 三舞、東町、東、中ノ町、下沼、上沼、杉山、耕地、辻ヶ下、久保田、和田、山下、台、平台、伊勢宮前、伊勢台、中原通、中原、鎗ヶ崎

通称地名 井田山、なつみ台、曲り松、いりの上、向、えび坂、塚畑、馬捨場、分け山、稲荷森、けえど、もちやま、向ノ坂、銀杏の木、南部屋敷、ばし、橋本、し

ぶっか、茅町、たてまち、しばら、宮の後、せどむら、井田堤、鎌倉街道、旧県道

井田 1 丁目 字東、山下、和田、久保田、辻ヶ下、木月字上ノ町、天王森の一部
井田 2 丁目 字山下、台、和田、平台、伊勢宮前、中原
井田 3 丁目 字辻ヶ下、伊勢台、伊勢宮前、中原通、中原、平台、蟹ヶ谷字東神庭
井田中ノ町 字中ノ町、耕地、辻ヶ下、東、東町
井田三舞町 字三舞、上沼、下沼
井田杉山町 字杉山、耕地、下沼、上沼

新城(しんじょう)地区

新城の地名は、中世の**稲毛本庄**と**稲毛新庄**に由来する。**新庄**が新城になった。この新城の地は、小田中郷にあり、本当であれば本庄の内にあたる。小田中郷が 14 世紀に分割され**上小田中村・下小田中村・新城村**になった。小田中郷の周辺に新庄の村々があったため、新庄と呼ばれていたものと思われる。

『小田原所領役帳』に今井やけへ方とある焼部をこの地と推論して、今井からの入植地とも考えられる。また、焼部から焼畑地名とも通ずる。

昭和 14 年ころから、駅周辺の整備が行われ、住宅地として開発され始める。昭和 28 年ごろから市営住宅や社宅が建設され、人口が急増した地域である。

新城小学校 昭和 28 年 4 月 1 日開校

大谷戸小学校 昭和 41 年 4 月 1 日開校

県立新城高校

新城は新城の一部を除いて、全てが昭和 54 年 11 月 5 日に住居表示が実施されている。上新城 1・2 丁目、新城中町、新城 1～5 丁目、下新城 1～3 丁目となる。

現在の新城地区の面積は、新城 1～5 丁目 17ha、上新城 1・2 丁目 13ha、
新城中町 9ha、下新城 1～3 丁目 27ha、新城 1ha

新城の小名 田島、焼部

新城の字 上耕地、田島耕地、仲耕地、居村道耕地、長島耕地、川田耕地、姥島耕地

通称地名 塚田、塔ノ越、地藏畑、出っ張り、西辺、橋場、新道

新城 字上耕地

上新城 1 丁目 字上耕地

上新城 2 丁目 字田島耕地

新城 1 丁目 字田島耕地、仲耕地

新城 2 丁目 字仲耕地

新城 3 丁目 字仲耕地

新城 4 丁目 字仲耕地

新城 5 丁目 字仲耕地

新城中町 字居村道耕地
下新城 1 丁目 字長島耕地
下新城 2 丁目 字姥島耕地
下新城 3 丁目 字川田耕地

市ノ坪(いちのつぼ)地区

市ノ坪の地名は、条里制の一の坪に通ずる歴史地名として重要である。しかし、市ノ坪の地域は、二ヶ領用水の水路が幾筋も通り、条里制遺構を探すのは不可能である。旧多摩川の流路跡がこのような地形を形成したことになる。

北側の府中街道に沿って中丸子用水が流れ、南側の小名長町の市ノ坪堰からは市ノ坪川(平間用水)から取水された。

大正 15 年に東横線が開通。昭和 2 年に南武線が開通し、東横線が高架となった。また、昭和 4 年に貨物専用の品鶴線が通り、府中街道が陸橋となった。昭和 14 年には、東横線の「工業都市」駅が新設され、軍需工場の進出により、横浜へのバイパスとして綱島街道が開設されるなど、目まぐるしい変化が起こる。

調査の段階で、通称地名が採取されていないので、「市ノ坪村水帳」から見られる地名を列記した。これをみると、用水に沿った地名の多いことがわかる。

現在の市ノ坪地区の面積は、市ノ坪 45ha

市ノ坪の小名 新田川端、大道上、土腐上、向畑、新田、田成、広町、田向、三屋、外屋敷、蔵屋敷、長町、鬼ヶ島、沖田、芝除、新田モウチ、佐兵衛屋敷、中島、塚根

市ノ坪の字 外屋敷、中村通、道内、広町、田向、下橋場、新田、平間境

通称地名 (稻荷わき、流跡、芝きわ、御屋敷、安脇、屋敷脇、屋敷添、堀内、堀内裏、堰下、屋敷前、橋脇、橋場、上橋場、上田向、下田向、新田橋向、宮崎、加瀬堰場、屋敷向、濬、古屋敷、向屋敷)

苧宿(かりやど)地区

苧宿の地名の由来は説明できない。**借宿**ともいわれ、昔は古道が通っており、多摩川を挟んで宿があり、正式の宿でなかったことから苧宿と呼んでとの説である。

苧宿の小名をみると、まったく現在に継承されていないが、その名称は水田に直結する意味を持つ地名が多いことに気付く。

飛地の**大加佐**には二ヶ領用水の六ノ堰(苧宿堰)があり、苧宿用水は本月地内を通過して、住吉中学校脇の用水路から苧宿に流れている。

明治 22 年に、周辺の村と合併して**住吉村**となり、その大字となった。大正 14 年に**住吉村**と**中原村**が合併して**中原町**となった。昭和 8 年に中原町が川崎市に編入されて、川崎市苧宿となった。そのころから、苧宿の南部一帯に大工場が進出してきた。

昭和 47 年に区政施行され、中原区となった。この時、大加佐は市ノ坪に編入され、鹿島田の字上通りの一部が、荻宿に編入された。鹿島田の飛地は鹿島田用水の取水口に位置している。明治の初めにここから横浜水道が取水された。

荻宿は平成 21 年 11 月 2 日に住居表示が実施され、西加瀬、木月住吉町の境界を変更している。また、二ヶ領用水沿いの市の坪字道の内、下橋場、新田を編入する。

現在の荻宿地区の面積は、荻宿 27ha

荻宿の小名 永勘島、扇田、初崎、毛智、鍵田、堅町、ナカラ田、高野作、川原田、阿弥陀免、三ツ田、井戸町、矢ク田、大田、田尻、柳添、川久保、近江作、三段町、宗珍前、八町田、八幡面、世戸田、カキ

荻宿の字 大加佐、東畑、西畑、西中町、東中町、大南

通称地名 東村、表村

上平間(かみひらま)地区

昭和 4 年に、平間の渡し場近くに、ガス送管専用橋としてガス橋が架けられ、人道も付けられ通行が可能となった。この渡し場は江戸に抜ける脇道として多くの人々に利用されてきた。平間の七曲り周辺には旅人が休憩する場所も設けられていた。自動車の増加から、橋の架け替えが行われ、昭和 35 年には、現在のガス橋が竣工した。

昭和 11 年 1 月に耕地整理により、**上平間**から**北谷町**と**田尻町**が起立した。北谷町は西を**市ノ坪**に、北を**中丸子**に隣接しており、**字北村**の北の字をとったと思われる。田尻町は南武線と府中街道の間に位置し、水路の末端の通称田尻と呼ばれていた地域に開かれたところによるとと思われる。

北谷町に所在する玉川小学校の**玉川(ぎょくせん)**の名をとって、上平間・中丸子周辺を行政単位として玉川地区と呼ばれている。明治 6 年に量教学校、明治 8 年に中丸子学校と呼んだが、明治 37 年に上平間の地に学校を作るにあたって、御幸村立尋常玉川小学校としたことから、玉川(ぎょくせん)の名前が生まれたのである。

昭和 47 年に区政施行に伴い、それまで御幸地区に所属していたが、中原区に編入された。

現在の上平間地区の面積は、上平間 82ha、田尻町 7ha、

北谷町 10ha

上平間の小名 梨の木、池淵、石原、蒲田、柴新田、野新田、八反張、大耕地、押切、古川、本村、北村、大村

上平間の字 北村、天神台、古下河原、五瀬渕、池渕、伊勢浦、伊勢前、四ツ谷前、玉川渕

通称地名 平間田圃、ふっか、渋っ川、オニゲ、平間の七曲り、銚子塚、田尻、玉川

加瀬(かせ)地区

北加瀬は周辺の村と合併して、明治 22 年に**住吉村**となった。大正 14 年に住吉村が中原村と合併して**中原町**になるにあたり、北加瀬は**日吉村**へ編入した。昭和 12 年に日吉村のうち、矢上川以東の小倉・鹿島田・南加瀬・北加瀬は川崎市に編入された。さらに、昭和 47 年 11 月に区政施行するにあたり、渋川を境に**西加瀬**という名称で中原区に編入された。昭和 49 年 10 月に苜宿・鹿島田・北加瀬の一部により、大倉町を形成した。

平成 21 年 11 月 2 日に西加瀬と苜宿、木月住吉町で住居表示が実施されている。

現在の北加瀬地区の面積は、西加瀬 22ha、大倉町 33ha

北加瀬の小名 新田、シブ川、久保、道上の一部

北加瀬の字 鹿島田境、道上、耕地、久保、苜宿前、渋川

通称地名 うず、西、下ん田、八反田

西加瀬 北加瀬字渋川、苜宿前

大倉町 鹿島田字上通り、関西、西耕地、宮城野、中村、苜宿字大南の一部

溝の口(みぞのくち)地区

溝の口は JR 南武線と東急田園都市線及び大井町線が交わる地点にあり、平成 11 年に再開発が終了し、住居表示が施行された。駅から西に 200 メートルほど行くと旧大山街道があり、狭い通りに古くから商売を営む店が残っている。駅北口はペDESTリアンデッキ(キラリデッキ)で放射状の道に繋がっている。デッキの下にはバスターミナルが整備された。また駅南口が完成し、丘陵地帯に向うバス路線が振り分けられ、駅前の混雑も大分解消された。

溝の口の表記は三通りあって、それぞれ使い分けられている。住居表示では「**溝口(みぞのくち)**」が、JR 南武線は「**武蔵溝ノ口**」を、東急線は「**溝の口**」を使用している。

この溝の口の地名について、先に発行された『川崎の町名』や『川崎地名事典』では、従来古書籍などで取り上げる、多摩川との関わりを指摘している。川の旧流路が村内を流れていることを意味したという。近年、二ヶ領用水流路の資料から、溝の口村に流れ込む谷戸川(平瀬川)が重要な用水として二ヶ領用水の根方堀に流入し、下流の村の灌漑用水として使用されていることに注目されるようになった。従来、平瀬川は溝の口村の水害の元凶と厄介者とするふしがあったが、平時には大切な用水であった。**溝**という語は、用水路を意味する言葉でもある。用水という言葉は、江戸時代になってから使用されることから、平瀬川の流れ込むこの地を溝の口と呼んだのではないか。平瀬川が村を抜ける辺りに**溝落**や**溝下**などの地名があるのもそのことを裏付けていると思われる。

溝の口は平成 9 年に 1～6 丁目、平成 14 年に 6 丁目の一部、平成 24 年に 1 丁目の一部に住居表示が行われ完結し、現在の溝口 1 丁目から 6 丁目になった。

現在の溝口地区の面積は、溝口 1～6 丁目 92ha

溝口の小名	産塚、十三坊(房)、塩辛、柳町、馬上免、猿屋敷、蔵山、法泉坊前、薬師前
溝口の字	東耕地、巽耕地、南耕地、西耕地、乾耕地、北耕地
通称地名	上宿、中宿、下宿、六軒町、棒端、片町、大田圃、前田通、出口、万年橋、入屋、大道上、大道下、南田通、南田塩辛、前塩辛、木ノ間、沖田通り、門前、赤城廻、後田、ドブ、七面山、大曲、水車場、大山道、府中道、神奈川道、雁追橋、境橋、二ヶ付堀、中窪通、大久保通、堀田、新田道、高畑道、向新田、二子後、二子境、新堀淵、桑田道、窪、砂田、堀割、柿下畑通、下屋敷道、久地前、大学屋敷、寺前、境島添、坂戸境古川敷
溝口 1 丁目	字南耕地、巽耕地、坂戸字上居村、二子字溝落耕地
溝口 2 丁目	字南耕地、巽耕地、西耕地、下作延字福ノ円の一部
溝口 3 丁目	字巽耕地、東耕地、乾耕地、西耕地、久地字西前田耕地の一部
溝口 4 丁目	字東耕地、二子字南耕地・居村耕地の一部
溝口 5 丁目	字北耕地、乾耕地
溝口 6 丁目	字北耕地、乾耕地

上作延(かみさくのべ)地区

上作延と**下作延**は古くは一村であった。慶長2年(1597年)に上・下に分かれた。平瀬川の上流部を上作延とした。古くから作延郷があり、緑が丘霊園の尾根上には作延城があったといわれる。

作延の地名の由来は分からないが、好字を与え、村が栄えることを願ったのではないかと推測される。溝の口へのバスの便が良く、早くから開けた。

町の中央を平瀬川が流れ、北斜面は通称**日向**と呼ぶが、耕地が少ない。一方、南斜面は通称**日陰**というが、耕地が多く、農業が盛んに行われていた。最近ほとんどが住宅地になってしまったが、まだ、農業的色彩を留めている箇所が見られる。

上作延は住居表示は未実施地区である。

現在の**上作延**地区の面積は、**上作延** 103ha、**向ヶ丘** 17ha

上作延の小名 別所、段子谷、末崎、新井、十三坊原、天神原、向原、鍛冶ヶ谷、大丸、道塵谷、別所谷、稲荷谷、大谷、原ヶ谷、柿木台、中谷台、城山下、稲荷通、向台

上作延の字 北原、原間谷、南原

上作延の通称地名 日向、日陰、上、中、東、新井台、西台、寮の上、富士見茶屋、天神上、五本松、ムコンダイ、播鉢山、小台、上ノ台、鎗ヶ崎、観音谷戸、大原、小原、仲丸、新田、向田、塚田、釈迦堂橋の田、堰場の田、下の田、泉谷、中谷、裏谷戸、エドヤト、ウマノスケヤト、下の谷戸、ラントーザカ、天神坂、オグラ坂、大曲、神木堰、別所堰、前堰、雁追橋、宮ノ下、毘沙門天王、佐五兵衛屋敷、空堀

下作延(しもさくのべ)地区

下作延は溝の口に隣接し、大山街道と神奈川道の起点となっていた。また、南武線の津田山駅付近までが町域で、津田山(七面山)と緑が丘霊園を含む。

下作延は平成19年に1・2丁目、20年に3・4丁目、21年に5丁目、22年に6・7丁目
が順次住居表示が実施され、下作延1～7丁目となった。

現在の下作延地区の面積は、下作延1～7丁目 174ha

下作延の小名 清水谷、平台、松安寺谷、正光寺屋敷、城山、天主台、鍛冶谷、かうみ谷、
中丸、地蔵谷、古池谷、笹原、北谷、大道通、勘左衛門谷、六左衛門谷、
川谷、根もちり坂

下作延の字 東耕地、辰之谷、巳之谷、南谷、中耕地、西谷、北之谷、日向、福之円
通称地名 矢の目、日向、北谷戸、林、新道、片町、谷戸、地蔵山、七面山、稲毛三
郎陣屋、清水山、池の谷戸、シューキヤト、ウルシヤト、大谷戸、中堀、
堰場、上之橋、蓬莱橋、マクレ橋、石橋、上の町、下の町、ドブッタ、サ
ラダ、オンマシ、オンマワシ、ツカダ、ヒヤツカンメン、上の原、上さの
畑、上の原、久地っ原、ヤノメ坂、セイカチ坂、中丸の坂、河内屋坂、陣
屋、岩っぱ、泥採り場、畚塚

下作延1丁目 字東耕地、福ノ円

下作延2丁目 字東耕地、辰ノ谷、巳ノ谷、南谷一

下作延3丁目 字南谷一、南谷二、南谷

下作延4丁目 字東耕地、中耕地、巳ノ谷、南谷一、

下作延5丁目 字中耕地、巳ノ谷、西谷一、西谷二、西谷三、北ノ谷

下作延6丁目 字中耕地、西谷一、西谷三、日向、北ノ谷、久地字伊屋ノ免、

下作延7丁目 字東耕地、中耕地、福ニ円、日向、

久本(ひさもと)地区

久本は溝の口村に隣接し、東辺は大山街道に面している。また、溝の口村境から旧神奈川道が村の山裾を通り末長村、新作村を経て横浜の神奈川宿まで通していた。このような関係から文化や物資の交流が盛んであった。

久本は平地と山地がほぼ半分で、明治の字では平地に町の名が、山地に園の名を付け区別していた。鉄道の開通後、内陸工業地帯として電気機械や光学機械の工場が進出し、耕地は減少の一途を呈した。工場の撤退により、学校や商業地域となり中高層の住宅が建設されるようになった。

久本の住居表示実施は、久本1～3丁目として平成4年11月24日に施行された。

現在の久本地区の面積は、久本1～3丁目 58ha

久本の小名	前田、頭田、六段田、島しり、西町、五明、むか田、池ふち、ふか町、中島、こや田、舟ヶ町、しの町、そり町、屋が町、辻下、三常坊、八段町、鴻の免、銭子町、やきわ、すかる田、八幡義、長谷、坊谷、関免、猿田、このま
久本の字	鴛鴦町、衛町、鴨居町、菊之園、桃之園、梅之園
通称地名	五反田、池田、根田、下耕地、八幡、久本山、麴屋坂、馬坂、兎坂、中坂、片町、大山街道、神奈川道、道免橋、根堀、大堀
久本1丁目	字梅ノ園、桃ノ園、菊ノ園、衛町、鴛鴦ヶ町、鴨居町
久本2丁目	字衛町、鴛鴦ヶ町、鴨居町
久本3丁目	字衛町、鴛鴦ヶ町、鴨居町

坂戸(さかと)地区

坂戸の地名由来は不明で、一説にスカ(砂)・ド(処)として、低湿な砂地のところ。また、一説に埼玉県坂戸からの出身者が切り開いた地とある。坂戸は、溝の口村の境にあり、水路が幾筋にも分かれ、隣村へと続く。また、上小田中村との境には、新城・末長の村境もあり、この付近をトーノコシという。塔の越は本来、山の峠に付く地名であるが、後に平地でもトーノコシが散見され、境を意味する地名と考えたい。坂戸はサカイドが短縮した地名ではないか。

村の北を二ヶ領用水川崎堀が流れ、旧流路は遊歩道や公園として保存されている。また、四ヶ村堀(中原堰からの取水)がミットヨの工場脇を流れ、根方堀が久本の境を南下して末長に至る。

坂戸の住居表示実施は、坂戸1～3丁目として平成3年11月26日に施行された。

現在の坂戸地区の面積は、坂戸1～3丁目53ha

坂戸の小名	上、下、高橋通り、木ノ元耕地、三町耕地
坂戸の字	溝下耕地、窪田耕地、三町歩耕地、新田耕地、下居村、上居村
通称地名	下の田、塩辛、余一町、御台場、春田、宮田、舟ヶ町、下の畑、どうみょうだ、四反丸、嵩様、やぎわ、高土手、八石、高畑、鍛冶屋屋敷、麦田、橋際、前の田、島の前、トラコヤシキ、小松屋敷、紺屋の屋敷、弁慶島、葎山、大田、池のそば、根通り、七曲り、溝下道、馬洗場、馬捨場、水垢離場、巡礼橋
坂戸1丁目	字上居村、久本字鴛鴦ヶ町の一部
坂戸2丁目	字上居村、下居村、新田耕地、上小田中字上耕地の一部
坂戸3丁目	字溝下耕地、窪田耕地、三町歩耕地、下居村、新田耕地

末長(すえなが)地区

末長は広大な地域で、丘陵部から南武線を越えて坂戸を境とする。平地には二ヶ領用水の根方堀が幾筋にも分かれ水田地帯を形成していた。また、丘陵の最頂部に**池の谷**と呼ばれる池があり、そこから湧く湧水が谷戸田を潤して、平地部で二ヶ領用水に注がれていた。久本境の旧神奈川道沿いには工場があったが、一部の工場が撤退後には国の施設が建設された。多くは水田が宅地化され、住宅地となっている。

末長の住居表示実施は、末長 1 丁目が平成 25 年 9 月 24 日、2 丁目が平成 25 年 11 月 1 日、3・4 丁目が平成 26 年 10 月 20 日に施行された。

現在の末長地区の面積は、末長 1～4 丁目 129ha

末長の小名 新城前、関免、柳町、五明前、鴻の免、小高谷、透毛台、笹ヶ原、窪台、ついち、松の木谷、四段田

末長の字 姿見台、久保台、向台、富士見台、中原、大谷、宗田町、中の町、高の面
通称地名 台、台坂、宮の森、小谷戸、大谷、堂坂、熊の森、おくら橋、大下谷戸、透茂坂、笠谷戸、久保谷戸、久保坂、前餅屋坂、大山越、松原、ボウリックボ、おな塚前、十王堂下、マミアナ、松本、池の谷、伊勢原、出口、薬師堂跡、第六天跡、富士塚跡、口明塚、牛の塚跡、神送塚

末長 1 丁目 字姿見台、向台、久保台、中原

末長 2 丁目 字富士見台、大谷、久保台、中原、宗田

末長 3 丁目 字宗田、中町

末長 4 丁目 字高ノ面、中町

梶ヶ谷(かじがや)地区

梶ヶ谷は高津区と宮前区に跨る地域である。現在は梶ヶ谷 1～6 丁目が高津区にあたる。下作延、末長、新作及び野川と境をし、名前の通り幾筋もの谷戸がある。近年になって、尾根道が幹線道路として整備され、町の姿が一変した。もともと水田などが少なく、山地を畑として切り開いてきた。その多くが現在は住宅地となっている。宮前区側の梶ヶ谷はそのほとんどが武蔵野南線の梶ヶ谷駅構内にあたる。

梶ヶ谷は耕地整理により昭和 44 年 11 月に梶ヶ谷 1～6 丁目となった。

現在の梶ヶ谷地区の面積は、梶ヶ谷 1～6 丁目 76ha、梶ヶ谷(宮前区)27ha

梶ヶ谷の小名 矢中耕地、中島耕地、寺前耕地、屋敷前耕地、宮前耕地、清水谷、池ヶ谷

梶ヶ谷の字 東耕地、中丸、清水谷、鎗ヶ崎、西耕地、宅地前、金山
通称地名 姿見台、亀の子山、長兵衛丸、古山、大谷戸、ハネクラ、中っ原、二畝割、後谷、上の原、下の谷戸、谷戸坂、宮の下、店の前の田、向いの田、平台、上の台、稲荷坂、馬小屋、笹ノ原、明地坂、溜井

梶ヶ谷 1 丁目	馬絹字鎗ヶ崎、清水
梶ヶ谷 2 丁目	字清水谷、清水
梶ヶ谷 3 丁目	字中丸、西耕地
梶ヶ谷 4 丁目	字西耕地、中丸
梶ヶ谷 5 丁目	字宅地前、東耕地
梶ヶ谷 6 丁目	字宅地前、東耕地
梶ヶ谷	字金山

新作(しんさく)地区

地名の由来は不明である。隣村の末長と形状が似ており、末長村が西に開墾したので**新作**としたとも考えられる。末長同様瑞祥地名である。

丘陵地には**小高**の地名があり、古代官道の小高駅(駅家)がこの付近を通っていたと推論している。崖上には八幡神社があり、崖下に多摩川が流れていた時代もあった。

平地部は整然とした田の形状がみられ、久本・末長・新作にかけての条里制遺構とみる考えもある。

新作は昭和 60 年 11 月 3 日に住居表示が実施され、新作 1～6 丁目となった。

現在の新作地区の面積は、新作 1～6 丁目 90ha

新作の小名 間際根、池の谷、神明谷、仏手台、田畑上

新作の字 高ノ免、太田、下耕地、上耕地、間際根、岸、向谷、池ノ谷、大原

通称地名 ワッタ、ハッタンマチ、ロクタンマチ、ゴタンマチ、コーノメン、スマダ、ナエマ、ミタビシタ、ショッカラ、カミシンデン、ネダ、イケノウエ、ナマズノアタマ、ダイダ、ヨコマチ、ヤケベ、シンボリ、サンダング、カワダ、チュータ、ナカボリシタ、イッチョウダ、ヨツメダ、トウノシタ、アンベンマチ、コンタダ、ボロベ、オッパラハタケ、シメデノハラ、ヤナギデー、シンメイコブ、カンノンドー、タカミデー、ケートノウエ、ムケーハラ、ハチマンデー、オオッパラ、ドーザカッパラ、ウマステバ、イワサキノハラ、ゴケームロ、カンカンムロ、チョーバノヤト、タベヤト、イドクボ、ゴロスケヤト、ムケーヤト、イケノヤト、オカマ、ニシノヤト、シンメイヤト、タカミヤト、ナカミラヤト

新作 1 丁目 字大原、池谷、向谷、末長字向台の一部

新作 2 丁目 字池谷、向谷、岸

新作 3 丁目 字向谷、岸、下耕地、間際根、上耕地

新作 4 丁目 字上耕地、下耕地、

新作 5 丁目 字上耕地、高ノ免、太田

新作 6 丁目 字下耕地、太田

千年(ちとせ)地区

明治7年に清沢村と岩川村が合併して千年村ができた。もともとこの二つの村は土地が複雑に入り組んでおり、地域のつながりが濃い関係にあり、合併はスムーズにいったようである。その後明治22年に周辺の村が合併した折には、橘村の村役場が千年に置かれるなど、中原往還と神奈川道が交差するこの地が村の中心となった。

丘陵の頂にある字伊勢台から、橘樹郡衙の正倉群が発掘され、この地が橘樹郡橘樹郷の中心であったことが証明された。国の指定を受けて、一部は埋め戻されて、遺跡公園として保存されることになった。

千年は住居表示が未実施である。千年新町は昭和29年10月に耕地整理によって千年の字大耕地が独立した。また、昭和30年8月に千年と子母口の一部から子母口富士見台ができた。

現在の千年地区の面積は、千年100ha、千年新町13ha

千年の小名 清沢村 上宿、中宿、下宿、井戸尻、蟻山、谷、別所、花井坂、井戸坂、塔中坂

岩川村 新道端、太田、竹ノ内、岸の根、大窪谷、立町

千年の字 前田耕地、下原宿、上原宿、伊勢山台、蟻山、三荷座前、岩之前、岩川、北浦、根田耕地、中耕地、大耕地

通称地名 殿坂、乱止、塚、スリマチ、稲荷森、屠場、馬捨場、坂下、オッパラ、稲荷台、原、上別所、下別所、上・下、上新田、下新田、春日台、大久保の上、上の原、ヤトムラ、ミナミ、上サの谷戸、前谷戸、入の谷戸、小添ヤ、ハネ坂、麴屋坂、アブ坂、蟻山坂、ナイテン堀、シキ堀、溜池、弁天池、モミヌキ、長衛橋、丸子橋、御嶽下、高新田、一丁田、ムギタ、ドブタ

千年新町 字大耕地

子母口(しばくち)地区

シボクチは渋口とも表記され、矢上川の水の成分に鉄分を多く含むところからの意とか、丘陵部の出口で狭まった地(しばむ)からの意などが挙げられている。子母口は当て字である。この地は、橘樹郡橘樹郷の中心であったことはほぼ間違いない。同丘陵に並ぶ橘樹郡衙及び正倉群跡が発見され、郡寺といわれる影向寺(橘寺)の存在、そして子母口にある橘樹神社の存在がそのことを証明している。また、子母口貝塚と子母口式土器など指標となる遺跡の存在も古くからこの地に人々が暮らしていたことを知る手掛かりとなっている。

しかし、遺跡の保存を拒むほどの宅地開発で、子母口のいにしへの姿を想像することはできなくなっている。

昭和30年8月に千年と子母口の一部から子母口富士見台ができた。

現在の子母口地区の面積は、子母口 70ha、子母口富士見台を含む

子母口の小名 久保、鳴子下、根田、宮原、大久保、朝日前、舟河原、長久保

子母口の字 植之台、根方、根田町、上新田、中新田、下新田、舟河原、旭田、富士見田

通称地名 橋場、冠塚、上村、堂山、スミヤシキ、上の寺、下の寺、御林、宮原、丸山、クラヤシキ、貝塚、大原、新田、イノクボ、西ヶ崎、ヤキバ、サカ、北坂、中央坂、子母口坂、朝日前通り、根通り、舟田、不動免、サカサ堰、岩川

子母口富士見台 子母口字根方、植之台、千年字上原宿、下原宿

久末(ひさすえ)地区

久末は大半が丘陵地にあり、西側を中原往還が通る。幾つもの谷戸があり、畑作中心の村であった。一方、矢上川沿いの低湿地は常に水害にみまわれていた。

久末の地名についてはわからないが、この付近の村名に**久本・末長・新作**など同じような意味を持つ村があることから、中世の瑞祥地名(好字)と思われる。中世後期の在地土豪に許された「名(みょう)」から発したものではないかと考えられている。

近年、住宅地として開発されているが、川崎市域の中でも蔬菜の産地として農業を営む家が多く存在する。

現在の久末地区の面積は、久末 128ha

久末の小名 小貝谷、財神、御堂谷、後ろ谷、勝田屋敷、番匠免、梅ヶ久保、芋の谷、伊勢原、大谷、籠場谷、横大道、城法谷、明石穂

久末の字 道下、後耕地、陣屋添、後谷、寺谷、宮谷、丸山、横大道、梅ヶ久保、伊勢原、楸谷、表山、表耕地、堰下、谷中、久末谷、小貝谷、達野、籠場谷、大谷、明石穂、イノ木、十二天丸、城法谷上、城法谷

通称地名 銭神坂、谷戸坂、高橋、桜道、中屋敷、陣屋、宮久保、桜塚、花立塚、大坂、チョウチョウ水、棒屋、中堀、松原、別当久保、馬洗場、馬坂、馬捨場、暗闇坂、十三菩提の畑、下の谷、狼水路、戈神戸、根ぐるみ、芋ノ谷入、死馬捨場

明津(あくつ)地区

矢上川に面した地域で、子母口の枝村の時代もあったようだ。その一例として、村社の熊野神社が一時、橘樹神社(子母口)に合祀された。しかし、明津村の強い願いで元に戻されている。

アクツは**悪土(アクツ)**で常に川の影響を受けて、湿地の状態であることを意味する。矢上川と推論であるが平瀬川がここで合流していたと考える。古くは南流した多摩川の水路跡であったことが**アクツ**と呼ばれ、**明津**と表記されるようになった。

子母口との境に水塚があり、洪水の時にも水没することがなかったという。

現在では、矢上川の川幅が広げられ、更に掘り下げられたため、かつてのような洪水は防ぐことができるようになった。子母口と久末、野川境で地下貯留管が完成したのも、こうした事情からの対策である。

現在の明津地区の面積は、明津 19ha

明津の小名 向の上、諏訪下、堰免、左近作り、水塚、井田向

明津の字 北川久保、東川久保、南川久保、西川久保、仲町

通称地名 杉本、向、向屋敷、耕地中、辻、熊野森、弁天丸、大淀、古関橋、一本橋、蟹ヶ谷橋、鎌倉街道、川崎往還

蟹ヶ谷(かにかがや)地区

蟹ヶ谷は矢上川の南に位置し、ほとんどが丘陵地で村の中心に谷戸が存在する。**カニ**は崖の意で、小名の**滝ヶ谷**や字**往古滝**が示すように、**タキ**は急崖を示す呼称として使われていた。

また、付近には神庭遺跡があることから、この付近で「神の祭祀をとり行う場」としての神庭という意見もある。

奥まった地にあって開発が進んでいなかったが、周辺の開発と共に傾斜地に集合住宅が林立している。

現在の蟹ヶ谷地区の面積は、蟹ヶ谷 42ha

蟹ヶ谷の小名 寺の下、コシマキ谷、大ナコ、井田境、西ヶ原、西ヶ角、滝ヶ谷、上清水、下清水

蟹ヶ谷の字 鎗ヶ崎、西の森、池の里、緑下、東神庭、仲町、西田原、往古滝、四方嶺、清水

通称地名 松山、不動の滝、セーノカミ、馬捨て場、鎌倉道、アサヤマの山、井田堤、溜池

下野毛(しものげ)地区

世田谷に**上野毛**、**下野毛**がある。現在東京側の下野毛は**野毛**に改称している。その下野毛が多摩川の乱流で分断され、飛地となったものが川崎側に残る。野毛は崖のことで、武蔵野台地が多摩川で削られてできた地形のことである。旧堤防が下野毛の形を作っている。

下野毛は平成2年3月26日に住居表示が実施され、下野毛1～3丁目となった。

現在の下野毛地区の面積は、下野毛 1～3 丁目 57ha

下野毛の小名 根通り、谷、原、岸、小金沢、山谷

下野毛の字 殿山、久保、久保南、久保東

通称地名 野毛山谷、天神山、ゲバヤシ、シモガヤ、下の池、東横の池、渡し場、本道、新道、イワッパ

下野毛 1 丁目 字殿山、久保

下野毛 2 丁目 字久保、久保南

下野毛 3 丁目 字久保東

北見方(きたみかた)地区

世田谷にも**喜多見**があり、古くは「**木田見郷**」と表記され、江戸氏の一族木田見氏の本拠となっていた。この木田見氏の支配する土地であったのか、「方」の土地の所属を示す用語を使っている。近世になって北見方の表記に変わったと思われる。

多摩川と府中街道に挟まれた地域で、旧府中街道に周辺の石碑が集められ、その中に道標や渡し場道に関する資料があり、この地域の役割を知ることができる。

北見方は平成 6 年 11 月 14 日に住居表示が実施され、北見方 1～3 丁目となった。

現在の北見方地区の面積は、北見方 1～3 丁目 69ha

北見方の小名 道下、たかひ上、大道根、堀合、高橋、古屋敷、土腐

北見方の字 下倉耕地、大道耕地、宮前耕地、山王下耕地、向河原、上耕地

通称地名 表、六反圃、高橋、定使免、長崎山、上の中田、下の中田、前の畑、六畝、田外、八ツ目度、堂面通り、四ツ屋、第六天、長割、旧道、

北見方 1 丁目 字下倉耕地、大道耕地

北見方 2 丁目 字宮前耕地、大道耕地、山王下耕地、向河原耕地、諏訪字東耕地

北見方 3 丁目 字下倉耕地、大道耕地、山王下耕地、向河原耕地、上小田中字上耕地

諏訪(すわ)地区

諏訪は古くは**諏訪河原村**と呼ばれ、多摩川によってできた村であった。東京側にも一部土地があったが、明治 45 年に東京府と神奈川県の間を多摩川としたため、現在の地域となった。昭和 3 年に諏訪に改めた。

諏訪は平成 6 年 11 月 14 日に住居表示が実施され、諏訪 1～3 丁目となった。また平成 9 年 11 月 25 日に溝口と二子の住居表示実施に伴い諏訪 3 丁目の一部が編入された。

現在の諏訪地区の面積は、諏訪 1～3 丁目 45ha

諏訪の小名 東向、塚田通、寺前通、熊沢通、諏訪前通、中河原、川附通、兵庫島、向河原

諏訪の字	東耕地、寺前耕地、熊沢耕地、諏訪前耕地、下谷耕地、中川原、向川原
通称地名	岡台通り、山根通り、下通り、新通り、一本松、水車、作場渡、悪水路、一町丸、長割り、中耕地、下ん田、二畝割り、下ノ谷川、亀堀、盗人掘り、旧堤防、自然堤防、諏訪橋
諏訪 1 丁目	字諏訪耕地、熊沢耕地、寺前耕地、下ノ谷
諏訪 2 丁目	字寺前耕地、下ノ谷、東耕地、中川原
諏訪 3 丁目	字熊沢耕地、寺前耕地、東耕地、二子字東耕地の一部

瀬田(せた)地区

瀬田は東京側の飛地であったが、明治 45 年に東京府と神奈川県の間を多摩川と決めたため、高津村瀬田となった。平成 6 年 11 月 14 日に諏訪と北見方が住居表示を実施するのに合わせて、瀬田も住居表示を実施した。

現在の瀬田地区の面積は、瀬田 19ha

瀬田の小名 上、下、奈加良、飛地

瀬田の字 瀬田堤外

通称地名 乗場、ソータマル、清助前、オキノネ、ネガワラ

瀬田 字堤外

二子(ふたこ)地区

二子の地名はこの地にあった**二子塚**によるという。二子は溝の口村の内であったが、大山街道が整備され二子にも旅籠屋や茶店ができて、溝の口村と競合するようになり、独立した。

大正 14 年に二子橋が架かり、渡し船が廃止となる。昭和 2 年、玉川電気鉄道が玉川から溝ノ口まで延長し、二子橋が人と自動車、電車の共用橋として使われる。

昭和 41 年に大井町線が田園都市線として長津田まで延長することになり、電車専用橋を使用することになり、二子橋の混雑が緩和された。

二子は平成 9 年 11 月 25 日に住居表示を実施して、二子 1～6 丁目となった。

現在の二子地区の面積は、二子 1～6 丁目 51ha

二子の小名 上宿、中宿、下宿、南横町、北横町、本村、下河原、南田、伊与田、溝落、西屋敷

二子の字 北耕地、居村、東耕地、南耕地、溝落耕地、堤外耕地

通称地名 向横町、二子新地、川原町、第六天、曲り田、中耕地、久保田、大道、古奥州道、眼鏡橋、汨橋、産塚跡、二子の渡し、二子塚(坊主塚)

二子 1 丁目 字堤外耕地、居村、北耕地、溝口字北耕地、久地字東耕地、瀬田字堤外の一部

- 二子 2 丁目 字居村、南耕地、瀬田字堤外の一部、諏訪字諏訪耕地の一部
- 二子 3 丁目 字居村、東耕地、諏訪字熊沢耕地の一部
- 二子 4 丁目 字南耕地、居村耕地、溝口字東耕地の一部
- 二子 5 丁目 字南耕地、溝落耕地、溝口字東耕地の一部
- 二子 6 丁目 字南耕地、東耕地、溝落耕地、

久地(くじ)地区

クジは抉るで多摩川が山にぶつかり、その地形を抉るような崖地を形成したところと考える。多摩丘陵と大明神山(津田山)にぶつかり、一部はその間の地に流れ込んだ。津田山駅付近を**オンマワシ**という。また、大明神山付近を**イヤノメ(ヤノメ)**で**イヤ**はやはり崖地のこと。**メ**はその隙間。二ヶ領用水沿いの崖を「はげ下」と呼ぶのも、この場所からの崩落を目にしたところから付いた地名である。

明治から大正にかけて多摩川で砂利の採取が盛んに行われたが、昭和に入り河川の砂利採取が禁止になると、陸掘り(おかぼり)といって、土の表土を剥がして砂利採取がこの付近で盛んに行われた。採取が終わると埋めもどしをして、現在はマンションが立ち並ぶ。ところどころに、まだ生コンクリートの工場が残っている。

久地の住居表示は、平成 14 年 10 月 15 日に久地 1~4 丁目を実施された。その後、周辺の町の住居表示に合わせて残りの地域に住居表示が実施され、平成 18 年 10 月 10 日に久地 4 丁目、平成 19 年 11 月 5 日に久地 1 丁目、平成 22 年 11 月 22 日に久地 1 丁目の一部が編入された。

現在の久地地区の面積は、久地 1~4 丁目 119ha、久地 13ha

久地の小名 川辺、いやのめ、山形、砂原、東前田、西前田、南前田、中通、下谷、土手根、比丘尼山、大明神山、久地山

久地の字 東耕地、中新田耕地、西前田耕地、伊屋ノ免、堰前耕地、北上河原、伊勢宮川原

通称地名 川辺、新田、東、本村、ヤノメ、西町、津田山、向山、サンヤ川、堀上、上ノ田、下ノ田、宮の面、四畝割、乾耕地、中島、新田、前田、原、樋の口、はげ下、立場、青山通り、府中街道、鎌倉街道、供養塚

久地 1 丁目 字西前田耕地、下作延字日向の一部

久地 2 丁目 字東耕地、伊勢原川原、中新田耕地

久地 3 丁目 字中新田耕地、堰前耕地、北上河原、西前田耕地の一部

久地 4 丁目 字堰前耕地、伊屋ノ免、下作延字西谷三の一部

久地 堰前耕地、北上河原

宇奈根(うなね)地区

宇奈根は同じ地名が世田谷にもある。昔は一つの村であったが、多摩川の乱流で村が分断されてしまった。明治 45 年に東京府と神奈川県の間を多摩川としたため、川崎側にも同名の町名が残った。地名の由来については諸説ある。第一は**ウナデ(溝)**、第二は**ウナ(畝)**で少し高い所の意、第三は**ウナネ神(水神)**などが考えられる。

宇奈根の字に**川原**と**山野**とあるように、河原を切り開いてできた土地であり、**山野(山谷)**は最も最後に切り開いたところを意味する。また、地図に**山野川**が載り、二ヶ領用水が出水で溢れそうになったとき、この山野川を使って多摩川に直接落とす重要な川であった。

現在の宇奈根地区の面積は、宇奈根 45ha

宇奈根の小名 台口、北口、中通り、ぜんぬひ、散家

宇奈根の字 川原、山野

通称地名 本村、宇奈根山野、こっちばらや、むこうばらや、お代官堀、カケツパ、山野川、下の出口、前の出口、おっきり橋、橋場

野川(のがわ)地区

野川の地名は村の中央を流れる矢上川を野川と呼んでいたことによると考える。古くよりこの川を境に北を上野川または**領家方**、南を下野川または**地頭方**として村を大きく二分していた。上野川には郡寺考えられる影向寺と村社の野川神明社がある。影向寺に向う参詣道が幾つもあり、一つひとつに坂の名前が付いている。

下野川には深い谷戸があり耕作地が広がっていた。近年住宅地として整備され、方面別のバス路線が複数ある。

住居表示実施が平成 30 年 11 月 5 日宮前区野川本町 3 丁目、高津区北野川、東野川 1・2 丁目に一部で実施された

現在の野川地区の面積は、宮前区野川 266ha、高津区野川 42ha

野川の小名 耳きれ谷、兒ヶ谷、天屋、籠場谷、天神谷、法螺貝谷、池谷、十三本堂、

野川の字 北耕地、東耕地、中耕地、南耕地、西耕地

通称地名 領家谷、影向寺台、天屋坂、くぬぎ坂、山下橋、上野川橋、橋本橋、野川橋、大日橋、山崎橋、平台、おくまん坂、みや坂、やかます坂、かまの谷戸、大門、大谷戸、くぼちり坂、勸進坂、大日根、ばじょうめん、橋本、北根、井戸窪坂、権六谷戸、山崎、横大道、子の神坂、有馬根、新田原、西蔵寺丸、山下丸、泉屋丸、やと山、一丁田、向田、向根、小松原、矢上川、榎堂用水、根ぐるみ用水

北野川 字東耕地、北耕地

東野川 1 丁目 字東耕地、中耕地

東野川 2 丁目 字中耕地、南耕地

野川本町 3 丁目 字東耕地、北耕地の一部

有馬（ありま）地区

古くは、**有間村**とも書く。旧有馬村は鷺沼を含む広大な地で、南側の尾根で横浜市域と境をなし、地域の中央を矢上川の支流の有馬川が流れている。

この地域が大きく変化するのは、昭和 28 年ころから、東急による用地買収がはじまり、将来的には住宅地として造成されることになっていた。具体的には、昭和 41 年に東急田園都市線が長津田駅まで開通し、鷺沼駅が開設されることである。

鷺沼駅を中心に東急電鉄の関連会社が土地造成を行い、**鷺沼 1～4 丁目**が昭和 41 年 8 月に起立する。次第に鷺沼周辺から土地の整備が拡大し、昭和 53 年 6 月に**有馬 1～9 丁目**に住居表示が実施された。久末―鷺沼間の市道も拡張され、住宅地の建設が進み、平成 1 年 2 月に、**東有馬 1～5 丁目**の住居表示が実施され、有馬地区の住居表示は完結した。

現在ではバス路線が整備され、横浜方面へのアクセスもあり、多方面への移動も可能になってきた。

現在の有馬地区の面積は、有馬 1～9 丁目 152ha、東有馬 1～5 丁目 117ha、
鷺沼 1～4 丁目 75ha

有馬の小名 前野、島田谷、大塚、影取、道城谷、金くそ谷、鷺沼、高山、貉谷、城山、下屋敷

有馬の字 南耕地、西耕地、鷺沼耕地、北耕地、東耕地
通称地名 日向、日蔭、植村、中村、後谷、島田谷、荒井谷、梅木谷戸、杉山谷、五郎谷、長谷、上の原、カワドッパラ、不動原、荒井原、栗原、入山、こぶた山、亀の子山、新作山、神地山、丸山、バラ山、堂山、文太坂、台坂、八幡坂、稲荷森、三ツ田橋、玄蕃前、天神前、宮の脇、腰、大んど、峯道、第六天、田通、

有馬 1 丁目 字北耕地
有馬 2 丁目 字北耕地、東耕地
有馬 3 丁目 字東耕地、北耕地、南耕地
有馬 4 丁目 字北耕地、西耕地の一部
有馬 5 丁目 字北耕地、西耕地、南耕地、東耕地
有馬 6 丁目 字東耕地、西耕地
有馬 7 丁目 字西耕地
有馬 8 丁目 字西耕地、北耕地、鷺沼耕地の一部
有馬 9 丁目 字西耕地、鷺沼耕地
東有馬 1 丁目 字東耕地、
東有馬 2 丁目 字東耕地、野川字西耕地の一部
東有馬 3 丁目 字東耕地、南耕地
東有馬 4 丁目 字南耕地
東有馬 5 丁目 字南耕地
鷺沼 1 丁目 字鷺沼耕地、北耕地

鷺沼 2 丁目	字鷺沼耕地
鷺沼 3 丁目	字鷺沼耕地、馬絹字大谷、土橋字原臺
鷺沼 4 丁目	字鷺沼耕地、土橋字西谷

馬絹(まぎぬ)地区

馬絹は矢上川が村の中央を流れ、大山街道(矢倉沢往還)が土橋から小台に抜けて、馬絹の尾根へと通じていた。しかし、小台付近は湧水が多く、しばしば街道が通行止めになるなど苦慮していた。そこで、三又付近から馬絹神社方面に抜ける長坂を大山街道とし、馬絹の尾根道へとつないだ。その後新長坂を切り開き、後に国道 246 号線となった。また、交通量の増加と共に現在はバイパスが国道 246 号線となった。

区画整理によって宮崎 1～6 丁目、宮前平 1～3 丁目が昭和 47 年 2 月 1 日に、小台 1・2 丁目が昭和 50 年 2 月に新町名となる。

馬絹 1～3 丁目が平成 28 年 10 月 17 日に、馬絹 4～6 丁目が平成 29 年 11 月 20 日に住居表示が実施された。

現在の馬絹地区の面積は、馬絹 1～6 丁目 102ha、小台 1～2 丁目 41ha、宮崎 32ha、
宮崎 1～6 丁目 95ha、宮前平 1～3 丁目 60ha

馬絹の小名 長坂、宮前、笹ヶ原、下神戸、上神戸、矢尻、矢中耕地、梅の木、鎗ヶ崎、回り沢、(川田脇畑通、有間境、高山、甚助谷、上野山、小台畠通、堂脇畠通、高芝野八町歩、屋敷通、平台畠通、堂脇)

馬絹の字 神戸、三又、後谷、川端、長坂、宮前、矢中、矢尻、寺台、平台、堂脇、小台、大谷

通称地名 小台坂、第六天、中島、矢中島耕地、杉の木耕地、馬絹耕地、高山、播鉢山、観音山、八幡山、上之山、六部塚、庚申坂、札の坂、弁天坂、旧長坂、新長坂、弥陀堂谷、堂脇谷、熊野谷、神戸谷、西の谷戸、池の谷戸、耳つり谷戸

馬絹 1 丁目 字平台、小台の一部

馬絹 2 丁目 字寺台、矢尻

馬絹 3 丁目 字寺台、矢尻

馬絹 4 丁目 字矢尻、矢中

馬絹 5 丁目 字矢尻、矢中、川端、宮前

馬絹 6 丁目 字平台、堂脇、川端、寺台、矢尻、後谷、長坂、宮崎字三ツ又の一部

小台 1 丁目 字大谷、小台

小台 2 丁目 字小台

宮崎 字長坂、三又、宮前、神戸

宮崎 1 丁目 字川端、後谷、堂脇、土橋字札野

宮崎 2 丁目 字後谷、長坂、三又、土橋字札野、花ノ台

宮崎 3 丁目 字三又、神戸、土橋字花ノ台

宮崎 4 丁目	字神戸
宮崎 5 丁目	字神戸、土橋字大野、花ノ台
宮崎 6 丁目	字神戸、土橋字持田、大野、大平、竹芝、長峰
宮前平 1 丁目	字堂脇、小台、平台
宮前平 2 丁目	字小台、土橋字白幡、大平、大野
宮前平 3 丁目	字堂脇、小台、土橋字花ノ台、大野

土橋(つちはし)地区

土橋の地名は村の西に鎌倉道が通っており、矢上川に架かる土橋から取ったと考えられている。東は馬絹村と接していて、両村が複雑に入り組んでおり、現在の土橋より広い地域であった。

村内には溝の口村飛地(字札野)があり、現在の宮前平 3 丁目付近である。宮前平駅前八幡神社は土橋と馬絹の境に位置していると言われている。宮前平の八幡坂(今の坂より北側)が大山街道で、馬絹の小台へと通じていた。

昭和 41 年に田園都市線が開通し、宮前平駅や鷺沼駅が開業して、町が大きく変わっていった。昭和 57 年に高津区から分区して宮前区ができ、宮前平 2 丁目に宮前区役所などの公共施設が建設される。

土橋は区画整理によって、昭和 47 年 2 月 1 日に土橋 1 丁目が、昭和 51 年 5 月に土橋 2～7 丁目となる。

現在の土橋地区の面積は、土橋 1～7 丁目 106ha

土橋の小名 大野原、牢場谷、太田前、持田谷、原台、西台

土橋の字 白幡、太田、原台、下谷、西谷、宮上、宮廻、竹芝、大平、持田、大野、浦谷、札野、花の台

通称地名 三ツ又、新鷺沼、日向、日蔭、蔵屋敷、荒神森、上の台、大崩れ、天台山、オカマ、オキの谷戸、分か去れ、寮の下、南谷、平台、新宅アラク、堂免、梶ノ谷、第六天、宮地、氷場、二つ丸、大平、下っ原、八幡台、狐穴、馬駆け場、千駄丸、トーボーシ谷、ドンドン川、ローバ坂、表耕地、裏耕地、梵天山、松山、亀の子山

土橋 1 丁目 字太田、宮廻、白幡

土橋 2 丁目 字下谷、原台、西谷

土橋 3 丁目 字原台、西谷、下谷

土橋 4 丁目 字西谷、宮廻

土橋 5 丁目 字宮上

土橋 6 丁目 字宮上、宮廻、西谷

土橋 7 丁目 字竹芝、宮廻

菅生(すがお)地区

菅生村が分割されて、**下菅生村**となった。**上菅生村**は現在の多摩区生田付近をいう。江戸時代においても開発が遅れており、一般に大野原という共同入植地があちこちに見られた。谷戸沿いに平瀬川に沿った道と尾根沿いに沿った道(王禅寺道)、生田(上菅生)から横浜方面に向う道が交差する地点に村の中心(蔵敷)があった。

昭和 15 年ころから陸軍の溝の口演習場として菅生の広大な土地が指定され、戦後に返還されるとそれらの土地はすべて**向ヶ丘**と呼ばれた。昭和 61 年以降の住居表示実施により、新町名で地名が復活することができた。

昭和 61 年 11 月 23 日に、**菅生 1～6 丁目**と**初山 1・2 丁目**、**犬蔵 1～3 丁目**が同時に住居表示を実施した。しかし、菅生地内には、公図が未確定のところがあり、再整理された。

昭和 63 年 2 月 29 日に、**水沢 1～3 丁目**と**潮見台**に住居表示が実施され、更に平成 1 年 9 月 25 日に**菅生ヶ丘**に住居表示が実施されることにより、菅生地区の住居表示は完結する。

現在の菅生地区の面積は、菅生 1～6 丁目 145ha、初山 1・2 丁目 99ha、
犬蔵 1～3 丁目 108ha、菅生ヶ丘 33ha、
水沢 1～3 丁目 64ha、潮見台 42ha

菅生の小名 稗原、犬倉、柳町、籠久保、膳棚、初山、ナイシ、住二所、代官山、鍛冶屋敷、二子塚、長沢、堂見物、蔵敷、本村、新屋敷、日吉嶺、春日森、稲荷山、鷲ヶ峯、般若台、野銭場

菅生の字
通称地名 滝沢、初山、中村、柳町、長沢、鷲ヶ峰、潮見台、水沢、清水、枝谷
薬研坂、島坂、番太坂、権現坂、矢道坂、白井坂、三軒家、狐丸、小谷戸、天王台、油免、小丸山、テーセンジ谷戸、車戸、分かされ、亀の子山、下原、膳棚、播鉢窪、中の丸、ババ道、二の丸、一の丸、ガンド谷戸、モンベ山、塚畑、清水谷戸、河内山、番太谷戸、大平、平台、一町山、万吉山、大崩れ、堰谷戸、鐘山、前田耕地、膳棚耕地、シマ、百俵面、飛森谷戸、狼山、源兵衛山、カンタ屋敷、ネギシの谷戸、大崩れ、原台

菅生 1 丁目 字中村、柳町、長沢、滝沢

菅生 2 丁目 字柳町、長沢

菅生 3 丁目 字柳町、水沢、鷲ヶ峰

菅生 4 丁目 字柳町、中村、水沢

菅生 5 丁目 字中村

菅生 6 丁目 字中村、(向ヶ丘)

初山 1 丁目 字滝沢、初山、中村

初山 2 丁目 字滝沢、初山、(向ヶ丘)

犬蔵 1 丁目 字清水、(向ヶ丘)

犬蔵 2 丁目 字清水、(向ヶ丘)

犬蔵 3 丁目 字枝谷、(向ヶ丘)

水沢 1 丁目 字水沢、清水

水沢 2 丁目 字水沢
水沢 3 丁目 字水沢
潮見台 字潮見台
菅生ヶ丘 字鷲ヶ峰

平(たいら)地区

昭和 36 年 4 月に長尾に接する地域の造成工事により**五所塚**の町名が起立する。五所塚 1 丁目は旧長尾村字西高根(鶴ヶ谷)、五所塚 2 丁目は旧平村**風久保**であった。

昭和 46 年 10 月に区画整理により、川崎市住宅供給公社が造成した地が町名変更を行い、**白幡台 1・2 丁目**が起立する。白幡台 1 丁目は旧平村字宮ノ谷で、白幡台 1 丁目の一部と白幡台 2 丁目は旧菅生村字初山にあたる。

住居表示と旧地域向ヶ丘の関係

平 1~6 丁目とけやき平、南平台が昭和 60 年 11 月 5 日に住居表示を同時に実施している。

現在の平地区の面積は、平 1~6 丁目 106ha、五所塚 1・2 丁目 15ha、けやき平 18ha、
白幡台 1・2 丁目 11ha、南平台 32ha

平の小名 石崎、堀之内、天神谷、馬場、大久保、狛沢、別所、天台、柳町、高山、風久保、竹の沢、かんゑき山、池の谷、宮脇、原ヶ谷、せがき田、堰下

平の字 風久保、高山、原ヶ谷、堰下、東、宮の谷

通称地名 大門、大野谷、百姓山、八幡谷、大谷、座頭淵、小谷、オーカミ谷戸、池の下谷、御水、王禅寺道、高師、代官跡、葛山平屋敷跡、古寺、水車

平 1 丁目 字堰下、風久保、

平 2 丁目 字風久保、宮ノ谷、原ヶ谷、高山

平 3 丁目 字原ヶ谷、高山

平 4 丁目 字東、宮ノ谷、原ヶ谷

平 5 丁目 字東、堰下

平 6 丁目 字東、(向ヶ丘)

けやき平 字東、(向ヶ丘)

南平台 字宮ノ谷、東、(向ヶ丘)

五所塚 1 丁目 長尾字西高根

五所塚 2 丁目 字風久保、

白幡台 1 丁目 字宮ノ谷、菅生字初山の一部

白幡台 2 丁目 菅生字初山、(向ヶ丘)

長尾(ながお)地区

神木 1・2 丁目は昭和 46 年に区画整理により起立した。**長尾村**の字長峰と**馬絹村**の字神戸の一部からなる。

多摩区长尾は昭和 50 年に住居表示を実施して高津区から多摩区に編入した。その後、昭和 57 年に高津区の分区に伴い、昭和 57 年 7 月 1 日の宮前区が誕生するときに**神木本町 1～5 丁目**が起立した。

現在の長尾地区の面積は、神木本町 1～5 丁目 85ha、神木 1・2 丁目 21ha、
多摩区长尾 1～7 丁目 115ha

長尾の小名 柳町、兵庫谷、下河原、富士ヶ谷、十三本原、池田、坂下、大谷、雪ヶ坂、鶴ヶ谷、別所、神木谷戸、殿下、権現台、妙覚寺台

長尾の字 新川、東高根、西高根、元泉、長峰

通称地名 白山面、射的面、天台、新林、下原、はなみど、仲原、上台、向原、神戸、焼原、中丸、兵五郎谷、裏谷、地蔵谷、向田堀、池田堀、勘助坂、新坂、平坂、狐坂、こい坂、中道、中村、丸池、山根通り、東谷通り、前田通り、東田通り、向原通り、宮谷通り、道情塚通り、金山、観音坊山、仲丸山、大川、よしくぼ谷、滝の谷、西谷、瓢田、一本橋

神木本町 1 丁目 字東高根、元泉

神木本町 2 丁目 字東高根、元泉

神木本町 3 丁目 字元泉、長峰

神木本町 4 丁目 字元泉、長峰

神木本町 5 丁目 字元泉、長峰

神木 1 丁目 字長峰

神木 2 丁目 字長峰

まとめ

今回は、川崎市中部の中原区・高津区・宮前区の主に住居表示変更後の町がどのように再編成されたかを調べてみた。

中原区については、武蔵小杉駅周辺の再開発と高層ビル群が日本中の注目の的となり、今後もしばらくは高層ビルの建設が続けられることが伝えられている。その最新の町の過去を知ることで、現在の武蔵小杉駅周辺の形成過程を報告する。

高津区においては、溝の口駅周辺の再開発が完結して、溝の口、二子、下作延、末長などが住居表示を実施した。道路を境に街区という区分けで丁目が付けられている。町の姿はほとんど変わっていないが、バスターミナルの新設で、人々の動きが活発になった。

宮前区は田園都市線の開通以後、目覚ましい変化をとげてきた。各駅の周辺整備が終り、そこからのアクセスも便利になり、溝の口駅や鷺沼駅、横浜のたまプラーザ駅などへのバス路線の充実が顕著である。

その様な中で、宮崎・向ヶ丘という、歴史の中にある地域もそれぞれの地域の中に再編成されてきた。しかし、その一部が残っていることに注目して、報告の機会を得て調査を行った。

各地区の地名の由来や町の変化について主に記述した。一部に町が分割されたものもあるが、川崎市は原則として、旧町の単位を継承するように取り組んできた。今後さらに人口が増えるとみられる地域における町の再編が課題となるであろう。

各地区の項の最後に、丁目単位の旧字を付記したが、今整理しておかなければ、旧町の地域把握が困難になると考えたからである。本来なら、その一つひとつを地図におとすことが望ましいが、一覧という形で残すことにした。

報告会論旨

1 中原区小杉地区の再開発から

小杉地区という表現があいまいであるが、今現在高層ビルの立ち並ぶ半分は上丸子であり、現在高層ビルが建設されている地域が小杉である。いわゆる武蔵小杉駅周辺の再開発地域が通称小杉地区とする。

そもそもこの周辺はどのようなところであったのか。現在の地図を見ても東西南北に区割りされている所が目に着く、これに対して南武線や府中道、二ヶ領用水川崎堀が西北から南東へ斜めに走り、東横線や横須賀線が北東から南に走っている。後者は後から配置されたものである。

現在の高津区から中原区、幸区にかけては昔から耕地として水田を中心に農業を行う生産性の高い地域であった。ところが、東京の爆発的発達により、多摩川を越えたこの地域が企業や行政の注目するところとなった。

昭和初期の私鉄各社の路線申請や用地買収、貨物輸送の拠点となる新鶴見操車場建設などで、町が大きく変わって行った。

南武線には二つの駅があり、現在の JR 武蔵小杉駅はグラウンド前駅と呼ばれ、中原区役所付近の府中街道沿いに武蔵小杉駅があった。昭和 19 年に現在の駅に統合して武蔵小杉駅となる。

武蔵小杉駅周辺でも、小杉駅東口駅前には横浜正金銀行の倶楽部の建物とグラウンドや池があった。その奥には印刷機械を造る東京機械製作所が道を挟んで両側にあった。さらに、綱島街道を挟んで不二サッシの工場などが並ぶ工場地帯であった。綱島街道はその当時(昭和 16 年)は日吉までしか通っておらず、軍用道路として建設されたものである。

東横線の武蔵小杉駅のできる前にあった、府中県道脇に工業都市駅(昭和 14 年—昭和 28 年)の名前はこの状況を意味していた。東横線の武蔵小杉駅は 1945 年(昭和 20 年)に開設された。

小杉駅北口駅前には企業のグラウンドがあり、東京急行(東急)により、日本医科大学予科が誘致され、病院、校舎とグラウンドが建設された。中原高等女学校(大西学園)が建設されるなど、文教地区として鉄道利用者の確保をねらった。同時期に、法政大学第二中学及び予科、慶應大学日吉校舎なども誘致している。

小杉駅西口駅前には北口改札からのアクセスが悪かったが府中県道付近には行政機関が集中し、また東横病院があるなど町の中心であった。1959 年(昭和 34 年)に武蔵小杉駅前バスターミナルができ、南武線沿線道路の整備が本格化する。

武蔵小杉駅前の再開発の口火を切ったのは、北口にあった企業の社宅が廃止または移転することによる広大な敷地の再開発であった。当初は中高層ビルによる多目的な転用であった。その後土地利用の見直しが図られ、高層建築が可能になった。これを受けて、タワープレイスの建設をみた。2007 年に不二サッシの本社工場の移転により、東口の再開発が本格化する。東急は 2000 年(平成 12 年)に目黒線を日吉駅まで並走させ、事実上の複々

線化を図った。また、念願の JR 横須賀線の新駅開設(2010 年・平成 22 年)により、武蔵小杉駅の人の流れが大きく変わった。

また、JR 南武線の第 1 期高架工事として、1990 年(平成 2 年)に武蔵小杉駅・武蔵溝ノ口駅の間で実現し、府中県道や中原街道の立体交差により、交通渋滞が大きく緩和された。このことにより、多摩丘陵に住居を持つ市民のアクセスが格段に良くなった。

再開発などで小杉駅周辺の整備計画が平成 5 年に「小杉駅周辺地区総合整備構想」として策定された。その後の指定変更があったが、6 つのブロックに分けて進められた。

- ①小杉駅東部地区 旧東京機械社宅・中小企業婦人会館跡地など
- ②中丸子地区 不二サッシ跡地など
- ③小杉駅南部地区 東電中原変電所跡地など
- ④新丸子東 3 丁目地区 東京銀行グラウンド・東京機械製作所跡地など
- ⑤小杉町 3 丁目中央地区 旧中原図書館・旧中原市民館跡地など
- ⑥小杉町 2 丁目地区 日本石油小杉アパートなど



2 高津区溝の口周辺の開発に伴う町の変化

町づくりの動きは 1961 年(昭和 36 年)ごろに完結した二ヶ領用水の直線化であった。溝の口付近は 1941 年(昭和 16 年)の円筒分水工事と並行して行われたが、そこより下流部は順次工事が行われていた。併せて平瀬川の旧流路跡の活用方法が検討されてきたが、溝の口の再開発の関連からなかなか事業が具体化しなかった。後に緑道や駅前自転車の不法駐輪対策として駐輪場整備などに活用されるようになった。

1962 年(昭和 37 年)に区画整理事業として駅周辺整備を行う予定であった。1966 年(昭和 41 年)に大井町線が田園都市線と名称を変え長津田駅まで延長し、東急側の駅舎の位置が変

わり、それと連動する形で1968年(昭和43年)に再開発事業に切り換えて計画を練り直した。

しかし、複雑に入り込んだ道路や建築物をどのように再整備するのか、駅周辺の交通渋滞をどのように解消させるのかなど課題が多く、いくつかの代案を提示し調整を行ってきた。それから20年後の1988年(昭和63年)にようやく、溝口駅北口地区第一種市街地再開発事業の都市計画が決定した。その後も事業計画の変更などで事業規模が大幅に縮小されるなど、当初の計画とは違うものになってしまった。

課題の道路整備では、1993年(平成5年)に小杉菅線の新しい道路の建設が開始され、駅前広場の人と車の分離を目的とするオープンデッキの導入などで、バスターミナルの完成をみた。1997年(平成9年)に大規模複合施設のNOCTY(ノクティ)が完成し、翌年の1998年に溝口駅南北自由通路が完成し、1999年(平成11年)3月に公共施設整備が終わり、この事業が完了した。計画を立ててから実に37年を費やしたことになる。

溝口南口の整備に関しては、北口の整備とは性格が異にした。菅生方面のバス利用者が北口の改札から踏切を渡り、後に跨線橋ができる。片町のバス停まで歩かなければならなかった。また、多摩丘陵よりの地域へのバスが、南口にあり、これも洗足学園よりの踏切を渡って行き来していた。これを一カ所にまとめ、さらに北口からのバスの系統を減らすことが検討された。

整備が始まったのはかなり以前で1983年(昭和58年)からで、旧神奈川道と呼ばれた、県道溝口横浜線を切り換えて新道を作り、左右の道路を大きな道でつないだ。このことにより、片町のバス停と南口バス停が一カ所にまとめることができる。その分、時間帯で増発して利用者の便をよくすることができるようになった。今までは増発したくても、バスを待機させる場所がなかった。2012年(平成24年)にほぼ南口バスターミナルは完成し、その後地下駐輪場の完成により、2017年(平成29年)南口の整備は完了した。



3 高津町の中心移動

高津村は1889年(明治22年)に溝ノ口村など8ヶ村が統合して生まれた。その時の村役場は大山街道の現在の大山街道ふるさと館の場所にあった。府中街道にも近く、村の中心に位置していた。建物が老朽化したため、1918年(大正7年)に橘樹郡警察署高津分署の旧庁舎を買取り移築して新庁舎とした。1928年(昭和3年)に高津町となったが、そのまま建物を使用した。1933年(昭和8年)に新庁舎を新築落成し、1937年(昭和12年)に川崎市に編入され、川崎市高津出張所となった。1947年(昭和22年)川崎市高津支所溝口出張所と改称した。1969年(昭和44年)に現在のてくのかわさき(川崎市生活文化会館)に移転するまで、実に80年もの間、高津地区の中心であった。

てくのかわさきの建物は神奈川県のコナエ庁舎であったが、川崎市における県の役割の縮小に伴い、川崎市が建物を借り受けて高津支所とした。そして1972年(昭和47年)に川崎市は区制を施行して、高津区役所となった。1982年(昭和57年)には分区が行われ、宮前区が誕生した。

そして1995年(平成7年)に、川崎市清掃局高津生活環境事業所の跡地に、高津区役所を新築して移転した。てくのかわさきの地に26年間いたことになる。

現在の高津区役所は下作延にあり、すでに23年が経過している。限られた地域の中で、役場(役所)の移動だけをみても、町の広がりや土地利用の変化が読み取れる。

4 向ヶ丘・宮崎地名の歴史的経過

1889年(明治22年)に町村制がしかれて、菅生・平・長尾・上作延の4村が統合されて向ヶ丘(ムカオカ)村が、土橋・馬絹・梶ヶ谷・有馬・野川の5村が統合されて宮前(ミヤサキ)村ができた。

1940年(昭和15年)にこれらの地域の一部が、陸軍の東部62部隊の陣営と溝の口演習場として隣の横浜市の一部を含んで接收された。そこに住む人々は移転を余儀なくされ、縁故を頼って周辺に移転したものやまったく関係のなかったところへと移っていった。農耕地も取り上げられ生活がまったく変わってしまった人々もいた。

買収地の第一次買収は、馬絹、大塚、上作延、下作延、向ヶ丘、菅生に及ぶ約600町歩。

第二次買収は、鷺沼、横浜市荏田、元石川等約400町歩。

そして終戦後、それらの土地は国が保管し、いくつかの法律を待って返還などの手続きが進められた。その返還された土地は旧村の大字に戻されることなく、新しい地名が付けられた。それが、明治22年にできた村名を付け、向ヶ丘と宮崎となったのである。

接收以前の場所に戻った人もいたが、ほとんどの人々は戻るができなかった。また、軍人の中には郷里に帰ることなく、手続きを経て帰農した人々もいた。

法律として次のようなものがあった。

(旧軍用地の転用を促す法制度)

1948年(昭和23年) 国有財産法他 公共団体に緑地、公園、火葬場、墓地、生活困窮

者の主要施設、水道施設、医療施設、学校に無償貸与か減額譲渡
1951年(昭和26年) 旧軍用財産の貸与及び譲渡の特例 公共団体に水道施設、医療施設、社会事業施設、学校に無償貸与か減額譲渡・減額貸与

1952年(昭和27年) 道路法 公共団体に道路の譲与か無償貸与
国有財産特別措置法 公共団体、法人、戦災者、引揚者、生活困窮者の収容施設に無償貸与・減額譲渡・減額貸与・譲与

このように、国有財産としての扱いであったため、基本的には公共団体の施設を中心に土地の活用が図られた。と同時に、その土地は新しい法律が施行されるまで土地の使用が認められなかった。その後、土地は元の所有者に戻されたが、不十分なものであった。

また、1951年(昭和26年)の農地改革(農地開放)より、軍用地を含む農地が返還され、その土地に向ヶ丘と宮崎の町名が付けられた。

そのような中、1953年(昭和28年)に東急がこの旧軍用地を将来の住宅建設地として計画を進めていた。『多摩田園都市構想』によると、昭和28年には構想計画地域の新しい地主を含む地権者を東急本社に招き、計画の発表と協力の依頼を行っている。昭和40年代の田園都市線沿線の計画がすでにはじまっていたのである。

旧大字の上作延、平、菅生の犬蔵に向ヶ丘の地番があった。現在は上作延の一部に向ヶ丘の地名が残る。また梶ヶ谷、馬絹、土橋に宮崎の地番があったが、多くが住居表示施行によって新地番が打たれ、現在梶ヶ谷と馬絹の一部に宮崎の地番が残る。

向ヶ丘と宮崎の町名は、昭和26年9月に施行され、広大な地域が指定された。その後の変遷過程は、向ヶ丘地区では、昭和46年10月に白幡台、11月に神木、昭和60年11月に南平台、けやき平、昭和61年11月に犬蔵、菅生、初山、昭和63年2月に水沢が住居表示施行により、分割された。

宮崎地区では、昭和41年8月に鷺沼、昭和44年11月に梶ヶ谷、昭和47年2月に宮崎1～6丁目、宮前平1～3丁目、土橋1～3丁目が土地区画整理事業により新町名となった。

5 東部 62 部隊と陸軍溝ノ口演習場

(1) 東部 62 部隊 2.6 km²



1940 年(昭和 15 年)から用地買収と兵舎建設が進められ、1942 年(昭和 17 年)11 月、赤坂にあった陸軍歩兵第 101 連隊が再編成され、現在の宮崎中学校の位置に連隊本部を設置した。鵺 3062 部隊が編成され、101 部隊の通称号の「東部 62 部隊」と呼ばれた。後に補充隊が主な任務となった。正式には留守近衛第 2 師団歩兵第 1 補充隊という。

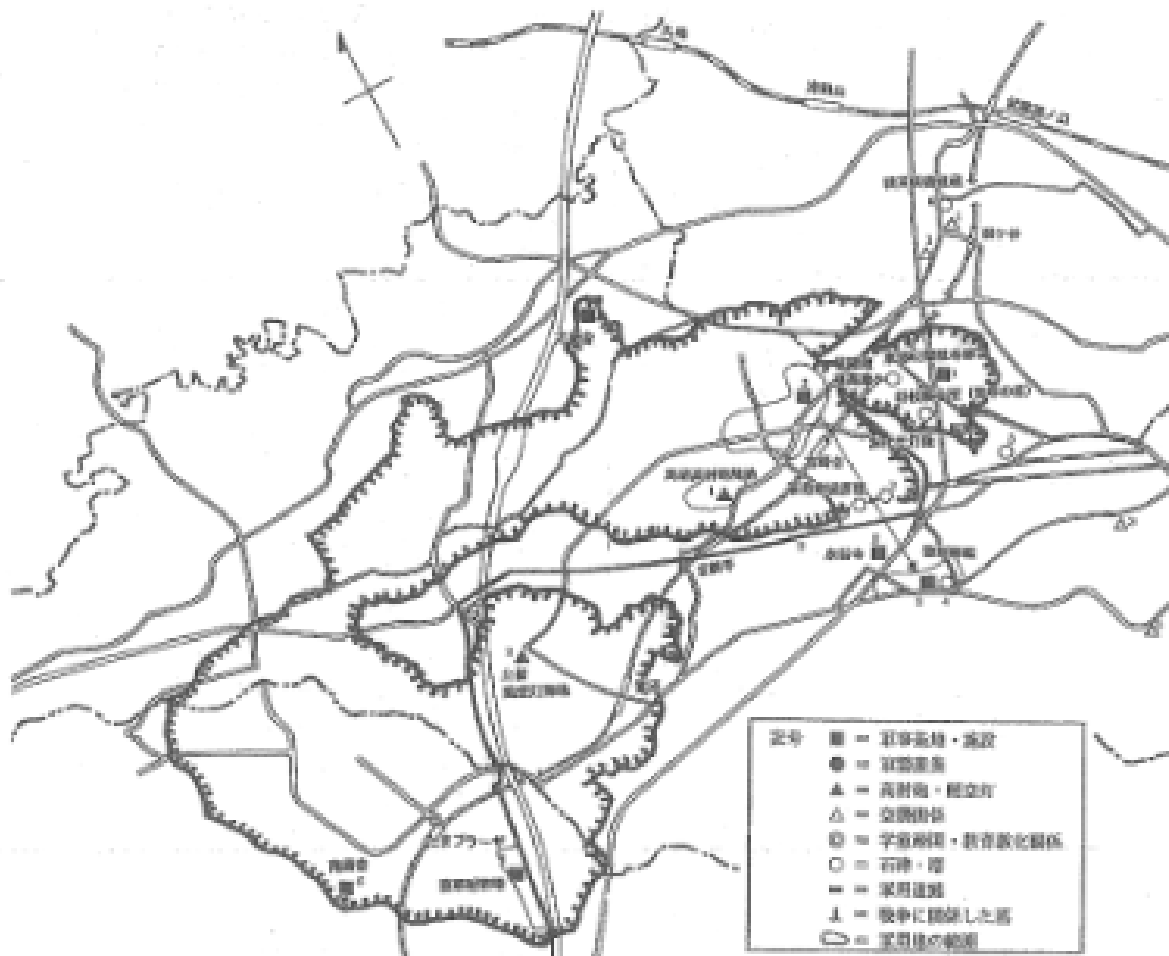
東部 62 部隊の範囲は、現在の宮崎中学校を中心に市立青少年の家、虎ノ門病院分院、大塚町の一部の丘陵上を中心とした範囲であった。

主な建物と現在の使用状況

- ・部隊本部—宮崎中学校敷地内 1967年(昭和42年)まで一部を校舎として使用
- ・衛兵所と営倉—旧大山街道に正門があった。宮崎大塚古墳の向い
- ・将校集会所—市青少年の家。1988年(昭和63年)まで建物を使用。お化け灯籠
- ・兵舎—虎の門病院分院から西梶ヶ谷小学校にかけて5棟。戦後、3棟が古市場小学校、日吉小学校、大西学園に校舎として移築。残りは病院施設や建設省職員寮として使用
- ・被服廠—宮前生活環境事務所。一時市立工業高校校舎、後に市清掃局し尿処理車庫
- ・弾薬庫—田園都市線作延トンネル西出口付近

(2) 陸軍溝ノ口演習場 5.8 km²

軍用地としての用地買収は1936年(昭和11年)ころから始まり、旧平村(現在の南平台、白幡台、けやき平)から始まり、1939年(昭和14年)には旧下菅生村(犬蔵)や旧土橋村(土橋、宮前平)、1941年(昭和16年)までに旧馬絹村(馬絹、小台、宮崎)、旧梶ヶ谷村(梶ヶ谷)、旧上作村(向ヶ丘)に及びました。さらに、買収年のわからない地域として、旧平村(平)、旧長尾村(神木本町、神木)が含まれます。また、横浜市の旧山内村(新石川、元石川、あざみ野、美しが丘)までの一帯を陸軍溝ノ口演習場として確保された。そこには、「陸軍」と書かれた陸軍軍用地境界標が要所要所に立てられていた。



宮崎 1～6 丁目、宮前平 1～3 丁目、小台、鷺沼、向丘、菅生、横浜市荏田、元石川に渡る地域で、東部軍司令部が管轄した。

主な建物等と現在の使用状況

北廠舎(きたしょうしゃ)：軍隊が演習先などで泊るための四方に囲いのない屋舎

一向丘中学校敷地内。帰農者や引揚者の住居他。1947 年開校の向丘中学校校舎として 14 年間使用

南廠舎—横浜市立山内中学校敷地内。1947 年の開校以来、1980 年代まで兵舎 3 棟が残っていた。

陸軍射撃場—田園都市線たまプラーザ駅南・国学院大学キャンパスとグラウンド
軍用道路—尻手黒川道路。大山街道

6 まとめ

今回報告した 3 例は特に共通性のあるものではない。

小杉地区は、まさに今脚光を浴び、更に高層ビルの工事が進み、そこには公共施設も移動して、町が一带の機能を目指している。しかし、共同体としての取り組みは今始まったばかりで、いくつかの活動が報告され、注目されている。

溝の口地区は、再開発事業は終結したが、その後この開発によって、地域が活性化され新ビルの建設や町づくりのグループ活動も見られる。新旧混在の魅力を生かして、溝の口らしい町づくりを目指したい。

向ヶ丘・宮崎地区については、歴史的経過を中心に今回報告した。地域には道路拡張やバイパス道路で地域がいくつにも細分化され、どの地域と結節点を持つかが課題になっており、ただ旧地域と結びつくのは容易でない。地域独自の新町名が生まれる可能性がある。

川崎市の地名に関する調査研究及び普及啓発業務委託

「川崎市 中原区・高津区・宮前区の町名の移り変わり」

川崎委託事業報告書

2019 年(平成 31 年)3 月

川崎市